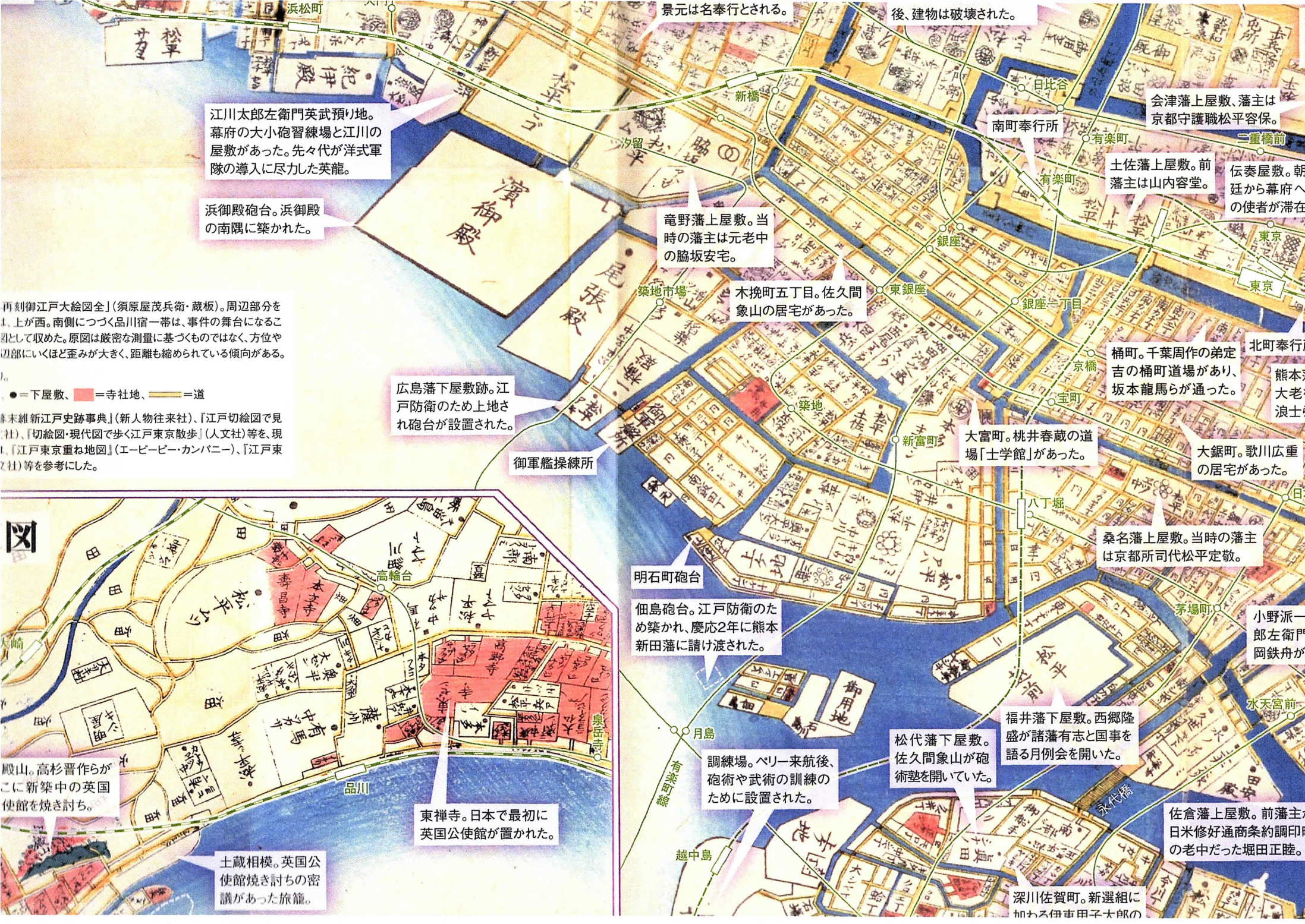




江川太郎左衛門英武預り地。幕府の大小砲習練場と江川の屋敷があった。先々代が洋式軍隊の導入に尽力した英龍。

浜御殿砲台。浜御殿の南隅に築かれた。

景元は名奉行とされる。

後、建物は破壊された。

会津藩上屋敷。藩主は京都守護職松平容保。

土佐藩上屋敷。前藩主は山内容堂。

伝奏屋敷。朝廷から幕府への使者が滞在。

竜野藩上屋敷。当時の藩主は元老中の脇坂安宅。

木挽町五丁目。佐久間象山の居宅があった。

桶町。千葉周作の弟定吉の桶町道場があり、坂本龍馬らが通った。

北町奉行所。熊本藩大老を浪士ら

大富町。桃井春蔵の道場「士学館」があった。

大鋸町。歌川広重の居宅があった。

桑名藩上屋敷。当時の藩主は京都所司代松平定敬。

小野派一郎左衛門岡鉄舟が

福井藩下屋敷。西郷隆盛が諸藩有志と国事を語る月例会を開いた。

松代藩下屋敷。佐久間象山が砲術塾を開いていた。

佐倉藩上屋敷。前藩主が日米修好通商条約調印時の老中だった堀田正睦。

深川佐賀町。新選組に加わる伊東甲子太郎の

広島藩下屋敷跡。江戸防衛のため上地され砲台が設置された。

御軍艦操練所

明石町砲台

佃島砲台。江戸防衛のため築かれ、慶応2年に熊本新田藩に請け渡された。

訓練場。ペリー来航後、砲術や武術の訓練のために設置された。

東禅寺。日本で最初に英国公使館が置かれた。

土蔵相模。英国公使館焼き討ちの密議があった旅籠。

再刻御江戸大絵図全(須原屋茂兵衛・蔵板)。周辺部分を、上が西。南側につく品川宿一帯は、事件の舞台になるこの図として収めた。原図は厳密な測量に基づくものではなく、方位や辺部にいくほど歪みが大きく、距離も縮められている傾向がある。

●=下屋敷、■=寺社地、—=道

『新編新江戸史跡事典』(新人物往来社)、『江戸切絵図で見学』(人文社)等を、現に、『江戸東京重ね地図』(エービーシー・カンパニー)、『江戸東京』(人文社)等を参考にした。

図

殿山。高杉晋作らがここに新築中の英国使館を焼き討ち。